

葛城中学校だより

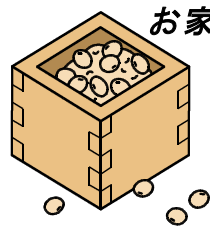
平成 4年 2月 4日(金)
岸和田市立葛城中学校
岸和田市土生町213-1
電話 072-427-5907
FAX 072-428-4494

○今日4日は立春です

冬至と春分の間あたり、暦の上ではこの日から春。この日を過ぎると少しずつ寒さがゆるみ始め、春の気配が忍び入ってくるといわれています。

季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられており、それを追い払うための悪霊ばらいの行事が豆まきです。

暦の上では春の訪れです。3年生の春はもうすぐのところに来ていますね。立春の前日が『節分』です。節分の日には「福は内、鬼は外」と言いながら豆まきが行われます。鬼がいやがることをすることで厄(苦しみや災い)を追い払い、幸せがいっぱい来ますようにという昔の人たちの願いがこの行事に込められています。



お家で豆まきをしましたか？ この豆まきは【追儺】と呼び、中国から伝わった風習です。日本では昔から穀物や果実には「邪気を払う霊力」があると考えられていて、豆をまくことで豆の霊力により邪気を払うということなのだそうです。地域によっては「鬼は内」という所もあるそうです。鬼を悪とみなさない地域や鬼をお祀りする神社でのしきたりだそうです。

ところで、日本人は昔から春という季節を大事にしてきました。米などの作物を作り始める季節だからです。でも、春の前の冬も同じくらい大事にしてきました。

冬というのは、自然や生命が「殖(ふ)える」という「殖(ふ)ゆ」からきた言葉だといわれています。これからの木々をよく見てください。冬の間に自然や生命がどんどん殖(ふ)えて、木々の枝にはたくさんのつぼみが寒さに耐え寒さに抗うようについてきます。そして、春を待っています。このつぼみはちきれんばかりに膨らんでくるのが春です。つぼみが「張(は)る」のです。このはち切れんばかりに張って外に飛び出してくる季節を「春」と呼んだのです。花が咲くというのは、つぼみがもうこれ以上待

ちきれなくな破れて花が外に現れるということです。また、この寒さの中で成長しなければ鮮やかな色の花は咲かないといわれています。

これからの2月、3月は1年間のまとめの時期です。それぞれの学年で学習したことを確かめ、しっかり身につけ、蓄える時期です。木々がつぼみを殖(ふ)やすのと同じです。学習したことがしっかり身につくと、次の学年の新しい学習が待ち遠しくなります。4月に花が咲くのが待ち遠しいのと同じです。さあ、3学期に残された日々はわずかです。みんなで楽しい春を迎えましょう。

○10日は大阪府の私学入試です

受験を控え、3年生からは緊張した雰囲気伝わってきます。先日、面接の練習をしましたが、面接に臨む態度や受け答えから試験に向けての意気込みがうかがえました。他府県をすでに受験した人もいますが、多くの3年生にとっては、初めての入学試験です。そして、私学を皮切りに公立特別選抜試験、一般選抜試験と続いていきます。今、プレッシャーを感じている人も少なくないと思います。睡眠時間も削って夜遅くまで机に向かい、早く試験が終わらないかなあと思っている人も多いと思います。大変だと思いますが、この大変さを乗り越えることが、自分を一回り大きく成長させます。プレッシャーに負けず、焦らず、一步一步がんばりましょう。



保護者の皆様も健康管理等、お気遣いの毎日を過ごしていることと存じます。応援よろしく願いいたします。

旧暦では2月は「きさらぎ」と呼ばれていました。今の暦(グレゴリオ暦)では2月下旬から4月上旬ごろに当たり、なんと春分を含む月だったそうです。まだ寒さが残っているので、衣(きぬ)を更に着る月であるから「衣更着(きさらぎ)」とか陽気が更に来る月であるから「気更来(きさらぎ)」とか草木の芽が張り出す月であるから「草木張月(くさきはりづき)」とか、名前の由来には諸説あるそうです。『如月』という語句は中国での二月の呼び名をそのまま使ったもので『如月』と日本の意味を当てて呼んでいます。